

模擬国連会議に 9 名が参加 優秀賞に 4 人がノミネート：「横浜隼人会議」

11月18日（日）、横浜隼人高校で開催された模擬国連会議に4、5年生9人が参加、アフリカの水問題の解決に向けて、アフリカ諸国の大使として、活発な議論を繰り広げました。

この会議には6校から50人以上が集う中、本校5年の2組の大使4人（直江さん、山ノ内さん、田子根さん、奈良部さん）が優秀大使にノミネートされました。また、9人全員が大使演説を英語で行い、盛んに意見や動議を出し、決議案提出の際にも提出国になる等、活躍しました。

活発に議論をリードした5年田子根さんは、活躍の秘訣を次のように語っています。「事前準備の段階で、担当国の情報を図式化して1枚の紙にまとめ、交渉中に持ち歩いた。また、議場では議論をまとめる一助として、リアルタイムでパワーポイントを作成した。交渉でグループが分裂した際に、作成したパワポを示して、グループを再結成することができた」と活躍を振り返りました。

ペアの相方の奈良部さんは、「二人で大使として担当しているの、会議中は、一人が演説のメモをとり、もう一人はパワポを作成する等、二人で別の役割を担って、効率的に動くことができた」と言います。

また、盛んに挙手をし、動議も出す等して大活躍した5年直江さんは、「動議を出すのは、勢いと思いがあってのこと。動議を出して、存在感を議場にアピールできると、交渉の際にも話がしやすくなります」と、誇らし気でした。

初めて参加した5年のペアも、「他の高校生達がどんなことを考えているのか聞けて、楽しかった。初めてだったけれど、自分達の提案も通る等、活躍できました」と満足そうでした。

一方、4年生3人は「英語スピーチはできたけれど、準備不足だった。今、次の会議に向けて、改善点を洗い出しているところです」と語り、今後に向けての前向きな意欲を感じました。

9人は皆、模擬国連の有志の会（SDMs:Speech, Debate and Model United Nations society）のメンバー達。数日後には、「レビュー（振り返り）」として、先輩から後輩に向けて、会議の準備方法、当日どう動いたかなど、経験をシェアする場を持ちました。

SDMsの発足から1年を迎え、メンバー達がこれまで蓄積して来たさまざまな学びが実りつつあることを実感した会議となりました。



[ノミネートされた本校大使たち]

